

第2回「持続可能な高岡市民病院のあり方検討会議」議事要旨

日時 令和7年5月12日(月) 午後6時30分～午後8時20分

会場 高岡市役所 802 会議室

質疑・意見交換の要旨

(○…委員からの発言 □…事務局からの説明等)

【議事】「検討の視点」を踏まえた課題とその対応の方向性について

- 入院患者数の推移について。医師の減少だけを理由に入院患者の減少には結びつけられないのでは。
- 令和6年度は入院患者数も増加に転じた。危機感を持って取り組んだ結果でもあるのではないかと考えている。
- 医師が減少して患者が減ったというだけだと、医師を増やすしかない。それ以外の点でも、患者を増やす取組はできるのではと感じている。

- 救急医療体制の維持について。二次救急の輪番については、今年、済生会高岡病院が小児救急を維持できなくなったことから、高岡市民病院に当番数を増やしてもらって、なんとか小児救急体制を維持できた。小児科は不採算部門なのだが、救急体制を維持するため高岡市には小児科医を増やしてもらったところ。高岡の二次救急医療は救急車が1時間に1、2回入ってくるので、非常に負担が大きい。市民病院には常勤医が少ない中でも多くの患者を受け入れてもらっている。

感染症について。コロナ禍においては、開業医の中には発熱患者は診られないという医院も多かった。そのような中、発熱患者は基本的に公的病院が診ていた。医師や看護師は感染拡大を防ぐために家に帰らず他で宿泊するなど、関係者の尽力によって高岡市はコロナを乗り切った。また、結核は今でも一定数いる。感染症病棟がなくなると大変困る。

精神科について。認知症の患者を警察が保護した際に、警察で預かってはくれない。どこかの病院に入院するしかないが、市民病院がその役割を果たしている。

高岡の救急医療は、搬送できない、搬送先が無いということが基本的にない。救急体制は公的3病院が頑張っているから維持できている。それを当たり前と思っている人も多いが、体制を維持しているだけでもすごいこと。

- 看護職や院内教育について。医療体制の特色を打ち出していくために、認定看護師、専門看護師といった教育をしていった方が良いのでは。専門的な看護師が増えることで、医師の負担も減ると思う。
- 医師の業務の一部を看護師が代行するタスクシフトの方法がある。市民病院でもeラーニング等を受けて特定行為の資格を取ってもらうようにしている。昨年は3名取得。

専門的な認定看護師の育成も行っている。外来で専門的なアプローチができるように、在宅のほうでも力を発揮できるのではと思っている。高齢者が病院でないと受診できないものを、

自宅でも受けられるように指導などを行って訪問看護の質の向上を図るようにしている。

- 地域連携の状況は。
- 様々なクリニックからの紹介などを受けている。
- 看護師の資格を持つケアマネージャーは少ない。訪問看護ステーションですら、ケアマネージャーとしての視点を持って対応している人は少ない。市民病院の看護師にケアマネージャーの資格を取ってもらえば、市民病院の特色になるのではと考える。
- 看護体制とケアマネージャーとが連携取りやすくなるように。大きな手術以外は在宅でできるのではないかな。
- これから増える在宅の高齢者にも対応できるよう様々な検討をしてみたい。
- 「自治体病院として求められる機能」の項で取り上げられていない案件として、市民病院は災害拠点病院なので、災害対応、DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣も行っているのでは。
- 令和6年能登半島地震においてもDMATを派遣したところ。災害拠点病院としての機能充実、備蓄品の充実にも取り組んでいきたいと考えている。
- 先ほど、市民病院の果たしている役割は高岡医療圏でも大きいという話があった。病院も事業である以上、支出に見合う収入がないと成り立たない。株式会社と違って利益を上げることが目的ではないが、負担の大きい赤字の部分でも市民病院として運営していかないとけないということを、この場だけでなく、市民に説明していくことが必要では。
- 赤字部分だけがクローズアップされて、市民の皆さんへの理解が進んでいないのでは。ホームページ等で市民に積極的に発信する体制を作っても良いのでは。市民病院の強みの部分も知らせていくべき。
- 市民病院単体で努力することも必要だが、医療圏として、地域として済生会高岡病院や厚生連高岡病院を含めての議論が必要ではないか。
- 市民病院単体での努力だけでなく、市内の病院、あるいは医療圏でのグランドデザインを考えていくべき。その際には市にも関与していただく必要があるのではないかな。
- 昨年度、全国の病院の多くが赤字になっている。光熱費等が上がっても、診療報酬が上がっていないという要因が大前提にある。病床稼働率が9割になってようやく黒字になるという試算もあるが、それは即ち急患を受け入れられないということ。
- SNS等における市民病院の口コミには色々書いてあるが、建物も綺麗だし、看護も良いし、医療水準が低いわけでもなく、ダヴィンチなどの機器もある。厚生連高岡病院は患者が戻っているのに、高岡市民病院や富山市民病院は戻っていない。どうしてなのか不思議でならない。
- 朝ドラの「おにぎり」で、管理栄養士がニーズに手厚く応えたエピソードがあった。現実にはそんな簡単なことではないと思う。市民はドラマ等の影響を受けすぎて、そうしたことを求め過ぎてしまうのではないかな。メディアの力は凄いので、うまく活用してほしい。

- 人間ドックの予約がスムーズにできるようになるのはありがたい。検査が短時間で終わることとはうれしいこと。人間ドックだけでなく、他の検査でも院内の案内や付き添いのサポートができる体制があれば、次の検査・診察の場所までスムーズに回れるのではと思う。
- 人間ドックは受診件数を増やしていきたい。流れが滞るところがあるため、web 予約だけでなく、受け入れ体制も作っていきたい。
- JCHO は健診センターが効率的に回れるようになっている。空いている健診場所を優先して案内してもらえる。受付も 7 時 30 分から開始しており、脳の CT 等を入れても 11 時には検査が終わる。
- 現状では、どうしても昼頃にかけて内視鏡が混んでくる。個々の改善を今後検討していきたい。
- 混む部分を外部に委託するなど検討できないものか。他の病院では、地元の医院に検査の部分を引き受けてもらっているという話を耳にしている。

- 小児科の先生が増えたことは、ありがたい。小児科の利益は少ないとのことだったが、ぜひ小児科医が増えたということを PR すべき。病院と距離が近いのは、こどもの親だと思う。家族向けの相談窓口のような相談に行きやすい環境があれば、病院のイメージアップが図られ、親御さんからの信頼、安心につながるのでは。
- 市民病院では病院を開放して「ふれあい健康フェスティバル」というイベントを実施しており、約 500 名に来場いただいている。今年は親御さんに向けた講演を小児科医にしてもらおうかと考えている。相談窓口については検討させていただきたい。

- 高岡市の子育てアプリを活用して、リアルタイムの医療相談とはいかなくても、はしかの対策などを情報提供できるような仕組みができれば良いのでは。
- 入院患者等がちょっと相談したい時に応対できる人がいれば、親しみやすい病院という要素になるのではないか。
- 人員が限られている中、相談体制については病院で対応すること、行政の保健福祉施策として対応することを組み合わせて対応していくことが大切だと考える。市全体として体制を厚くしていくという考え方で対応していくことが重要。

- 以前、市民病院ではスポーツ外来を行っていた。今もスポーツ少年団などの相談ニーズがあると思う。かつてはその担当医師を紹介してほしいという人が何人もいた。その先生がせっかく市民病院に来てくれているのだから、専門的な知識を活かしてもらえるようにした方が良いと思う。
- スポーツ外来は専門外来として、午前に外来、午後に手術を行う体制としているので、もっと PR していきたい。
- 私用で市民病院に通った際に、偶然その先生がいることを知った。先生が市民病院にいることを知らない人は多いのではないか。
- 市の公式 LINE などを活用し、病院の情報をもっと PR すべき。

【議題】経営改善等の取組み

- 市民病院の建設当時、間接照明が多いなと感じた。ナースステーションなど夜間も照明がついているところの蛍光灯を LED に換えたら、電気代が相当削減されるのでは。
- これまでは入院患者に影響の少ない箇所を LED に換えてきたが、今後一斉に LED に切替える方向で考えている。夜間照明が一晩中点灯している箇所の見直しも図っていく予定。

- 看護師の離職率はどの程度か。
- 正確な数字はすぐにはお答えできかねるが、人数では年 20 名程度か。

- 病院の職員は経営状況についてどのように感じているのか。改善の提案が職員から上がっているのか。
- 昨年度より院内会議においても経営状況について説明している。情報が入りやすい上層部に比べ、全体に行渡るのは少し時間がかかったが、浸透してきたと思う。前に向かって進んでいきたい。
- 企業だと職員が SWOT 分析をしたりするが、そうした取り組みはしているのか。
- 様々な部署でヒアリングを実施している。プロジェクトチームを立ち上げ、管理職だけでなく、多くの職員の意見をもらいたいと思っている。
- 上杉鷹山のように、これまで意見が通らなかった人からの意見を積極的に取り上げてほしい。言いたいことが院長に直接届くように。

- （資料 2 13 頁より）成美、野村地区の患者数の減が大きい。すなわち、市民病院の近隣エリアからの減。成美や野村の開業医に営業をかけてみてはどうか。近くの病院への紹介を希望する患者も多いと思われるが。
- 地域別のデータは、第 1 回検討会議で話題となったので今回お示ししたもの。開業医との関係性もあるかもしれないし、通いやすさ、地域の人口動態等も要因としてあるかもしれない。もう少し分析が必要な数字かと思う。
- 中学校区別のほうが、より傾向が見えるかもしれない。

- 市民病院の駐車場は、診療が無い午後でも車が多いように見受けられる。いつ行っても満車になるようなら、対応を考えていかないといけないのでは。無料駐車場をチケット制にすると手間や経費がかかってしまうが。

- 市民病院に対する市民の期待は凄く大きいと感じている。その期待の高さゆえに、もっとできるのではとの思いが市民にはあるのではと思っている。市民から親しまれる通いやすい病院になることはもちろんだが、地域の福祉・介護から信頼される医療機関になっていただきたい。
本日の意見の中に連携についての話が出たが、在宅医療、介護、そして他の医療機関との連携体制を進めることで、地域全体の医療レベルを落とさずに取り組んでいけるのではないか。
認知症疾患医療センターについて。最近の認知症患者は単に入院させるだけでは処置が難しい。急に何か大変なことが起こった時に市民からあってよかったと思える病院、「うちで無理

ならここだ」と関係者から頼られる病院を更に目指していただきたい。

産後ケア事業は市民病院の売りになると思っている。県内でもニーズが上がっている。市民病院は精神科もあるため、精神患者のケアもできる産後ケアということをプッシュしていけば良いと思う。リハビリ職を増やしたことは非常に良いこと。医療と介護の両方に対応できる病院、スタッフというのは世の中に強く求められていると思う。急性期の治療の後、自宅に戻ったり、介護が必要になったりされる方々を医療圏全体として補完できるようになると良い。

- （委員欠席のため事務局代読） 病院のコンテンツをもっと広く知ってもらえるようにしてはどうか。病院の広報誌は良く出来ているのに、市民に広く行き届いていない。『市民と市政』に折り込むことや、高岡市の公式 LINE を活用することなど、対応ができるのではないか、
- 広報には力を入れていきたいと思っており、広報委員会のプロジェクトとして改善を図りたいと考えている。広報誌はクリニック等にしか配っていなかったもので、SNS 等での広報など順次やっていきたい。
- 検討会議で案をとりまとめるまでの間に、市民の意見を聞く機会を設けたり、市民と双方向のやり取りをする中で市民病院を応援しようという機運を高めたりすることはできないか。
- 第 1 回検討会議の資料や議事要旨については、市のサイトにおいて先日公開したところ。
- 市民病院単体として、やるべきことはやる。それに加えて、他の医療機関と連携していくという点についても検討してまいりたい。病院としての情報発信もそうだが、検討会議としての情報発信も行っていきたい。